

Key-Eyeあるまちづくり(No.33)

一般社団法人 熱中こばやし 理事
(小林市) 南校区まちづくり協議会 会長
吉村 秀昭 氏

南校区まちづくり協議会で「新しい運動会をつくる！」

なぜ運動会を行ったのか

スポーツ共創との出会いは、2018年10月20日（土）に宮崎県小林市で開催された宮崎こばやし熱中小学校（以下「熱中小」）の第4期授業で一般社団法人運動会協会理事犬飼博士先生を招いて「IT社会とスポーツの変化 こばやし熱中運動会やってみませんか？」の授業である。

スポーツを「する」「みる」「ささえる」に「つくる」を入れることで、するスポーツ、みるスポーツ、ささえるスポーツの広がりにも影響を及ぼし、スポーツ参画人口の拡大が期待できる。

スポーツにITを融合させた「YCAMボール」スマートフォンのジャイロセンサーを活用し、振動回数をカウントできるボールの実演やVRゴーグルの活用を紹介し、生徒60名が講義の後に運動会の種目を考えた。

2019年1月南校区まちづくり協議会（以下「まち協」）と小林市社会福祉協議会の共催ワークショップの中で参加者の中から住民参加型の「新しい運動会を開催したい」との意見が上がり、同年3月九州大学で行われた「第1回未来の福岡の運動会」に参加した。当日は100名を超える参加者で家族、学生、ハンディキャッパー、エンジニア等本当に多様な仲間との競技&協議・競争&共創を行った。



【2019年3月17日（日）九州大学で行われた「第1回 未来の福岡の運動会」】

同年5月「まち協」総会で自治会（区・組）などの地域コミュニティは、加入世帯率の低下や役員等の活動の担い手の固定化などにより共同体としての機能が低下しつつあり、地域住民も価値観や課題等を共有していくことが困難になりつつある現状を踏まえ、「まち協」などの地域コミュニティ活動を通じて、市民が自治意識を高め、互助の必要性を再認識し、連帯意識や相互の絆を再生していくための一つのきっかけを作るために「みんなでつくる新しい運動会」の開催を提案した。

スポーツ共創人材ワークショップ合宿2019でこれまでにない運動会を学ぶ

2019年9月東京にてスポーツ庁の事業「2019 年度スポーツ人口拡大に向けた官民連携プロジェクト・新たなアプローチ展開」の一環として開催された、スポーツ共創人材育成ワークショップ合宿2019に参加した。対話哲学や、Deverop（造語：（つくる）+PLAY（あそぶ）= DEVELOPYAY（デベロッパレイ））等を学んだ。

初日はアクションプラン（ゴール）を設定し、考え方と対話の練習（哲学対話）2日目は、運動会のハッカソン（アイデア出し）を体育館で行い、ディベロップレイ（スポーツ共創）を行った。具体的に4種類のスポーツを共創した。

- 第1種目「ターザンボーリング」
- 第2種目「ずぼらサッカー」
- 第3種目「タピオカバランスティー」
- 第4種目「3D綱引き」

午後からは実際に4種目を競技し、運営し、MCを務めた。台本、マニュアルを作成し、選手入場・開会の言葉・選手宣誓・開催の趣旨説明し、審判委員長・音響・パワーポイント・チームリーダーの役割分担、安全の確保を行いつつ4つの競技を行った。その後、夜には「ディベロップレヤー」・「ファシリテータ」・「ディレクター」・「プロデューサー」としての振り返りを行った。

3日目は初日に作成したアクションプランに従い「第1回こばやし熱中運動会」をプレゼンし参加者と講師陣からアドバイスを頂いた。

これまでに無い、運動会を。知らない人だらけの参加者が、運動会の競技発案から創り、実際に運動会を開催してみんなで楽しむ。競技の楽しさだけではなく、自分達で競技を創って楽しんでもらう。勝ち負けだけではない充実感。創造力・コミュニケーション・運動・交流・連携・協力・発信力…。

運動会には様々な要素が含まれていて、社会や教育、地域活性化、地方創生など多くの場面、場所で「運動会」は活用出来ると実感した。

「こばやし熱中運動会」は、宮崎県小林市で2019年10月19日（土）～20日（日）に開催された。当日はプロデューサー・ディレクター・ファシリテーター・メインMCはスポーツ共創人材育成ワークショップに参加したメンバーで決定し、ディベロップレヤーのみが初参加となった。

第1回こばやし熱中運動会開催

2019年10月19日（土）～20日（日）「第1回こばやし熱中運動会」開催。

初日は運動会のハッカソンを開催。第6期熱中小の授業にまち協も参加し犬飼博士先生と株式会社運動会屋代表米司隆明先生を招いて、「運動会とは？」の授業で、

- 「プロデューサー」：運動会と宮崎県小林市をつなぐ役割
- 「ディレクター」：運動会を開催する目的を世代間の交流の場と位置付け目的達成の手法を提案する役割
- 「ファシリテーター」：運動会の競技をハッカソン参加者とともに考え、安全や参加者の構成等を考慮し目的の達成のために環境を整える役割
- 「ディベロップレヤー」：運動会に参加し競技を作る事と遊ぶ事が一体となっている人・役割

を教えて頂き、運動会のゴール・完成の定義、運動会と社会の関わり合いを学んだ後に運動会の競技を参加者で実際に作った。

運動会を開催するにあたり事前にテレビ会議を講師の先生方と3か月ほど前から行い、当日はプロデューサー・ディレクター・ファシリテーター・メインMCはスポーツ共創人材育成ワークショップに参加したメンバーで決定し、ディベロップレヤーのみが初参加となった。

運動会のアクションプランは以下のフレームワークに従い検討した。

- なにを？：「第1回こばやし熱中運動会」
- いつ？どこで？：「2019年10月19日ハッカソン、20日運動会を宮崎県小林市コスモホールで開催」
- だれと？：「南校区まちづくり協議会の区民と宮崎こばやし熱中小学校の生徒」
- そのゴール（成果）はなんですか？：「世代間の交流とまちづくりを共感する機運の醸成」
- なぜあなたが？：「「まち協」会長であり、まちづくりへの無関心を関心に変えたい思い」
- 課題になることはなんですか？：「完成した競技をハッカソンに参加していない運動会参加にどう伝えるのかと次回開催に向けての継続性。」

ハッカソンでは運動会定番の用具からデジタル機器まで準備し、参加者全員でアイデアを出し合い、ファシリテーター4人が各チームに分かれディベロップレイを行い、「競技中のルールが分かりやすいか？」「安全に配慮しているかどうか？」などの意見を出し合い協議内容を決定していった。

「第1回こばやし熱中運動会」開催当日、午前中からスタッフとファシリテーターにより運動会の予行練習を行い、開会式の流れ・競技の進行具合・審判・点数・時間配分・アトラクション等を確認し、競技のルールを参加者に伝えるために競技前にスタッフでデモンストレーションを行うことを決めた。午後からの運動会では、運動会の空間を一つ小さな「小林市」と考え、運動会の見学者もまちづくりのプレーヤーと決めつけて、2歳から最高齢92歳までの運動会を行った。

（1）第1種目
第1種目はYCAM（山口情報芸術センター）で開発されたYCAMボールを使った「ゆらして送れ！YCAMボール」。
揺れた回数をカウントするボールを振りながら、チームメイトにパスして制限時間内にカウントの多かったチームの勝利。

（2）第2種目
第2種目はファシリテーター藤原和将さん（[a-project 株式会社](#)）が開発された不整地トレーニング用ビーズクッションを使った「ビーズツムツム」。
ビーズクッションをラグビーボールと仮定してチームで運んで積み上げる競技。積み上げたビーズクッションのタワーの周りを3周してまたチームで運んで積み上げる競技。スピードと正確性を競う競技。



【「ピースツムツム」開催風景】

（3）第3種目

第3種目は小林市の左近太郎を使った「おじゃみ とっちゃろかい」。
左近太郎とは谷川の流れを利用して作った米つきの装置であり、装置を模した木製の器具でおじゃみ（お手玉）を高く上げ、バケツで拾う競技。制限時間内にいくつのおじゃみを獲得するかの競技。

（4）第4種目

第4種目は究極の人間借り物競走「小林市人材発掘ゲーム」。
お題に沿った人を参加者の中より連れてきて競う競技。当日は身長合計を7メートル・年齢合計を300歳で競い、2歳から最高齢92歳までの参加者が競った。



【「小林市人材発掘ゲーム」開催風景】

（5）第5種目（最終種目）

最終種目は大物「合体バブルボールだるま」。
バブルボールと大玉ころがしの大玉を使った競技。子どもチームはバブルボールを転がして宮崎特産完熟マンゴーの箱をバブルボールの中心に詰めて戻ってきてから大人チームとバトンタッチ、大人チームは大玉を地面に落とさずに運び最後にだるまのようにバブルボールの上ののせるタイムトライアル競技。

第1回こばやし熱中運動会における課題と第2回への展望

競技名だけでは中身が分からないのがこの運動会の面白さ。

参加者だけではなく見学者も「みんなで作る運動会」2歳から最高齢92歳までの60人の参加者があり、当初の目標である「世代間の交流とまちづくりを共感する機運の醸成」に起因した運動会を達成できた。

第1回こばやし熱中運動会において「運動会をつくる」という事が区民に伝わりにくく、参加者の募集に苦労した。しかし、参加者からは一同に「こんなに楽しい運動会ははじめて」「子どもと参加し親子のコミュニケーションの一助となった」「多くの若者が街づくりを真剣にそして楽しく活動している姿が伝わった」とのご意見を頂いた。当日はテレビ宮崎の夕方ニュースで運動会が放映され、後日宮崎日日新聞と小林市広報に掲載された。



第2回こばやし熱中運動会の開催

2020年5月、第2回こばやし熱中運動会の開催が決定した。開催に向けた事前会議はZoomを活用、また、参加者増に向け昨年の動画をSNS等で発信する等、コロナ禍の中、インターネットも効果的に活用した。参加対象者は年齢・性別・ハンディキャップは問わず広く募集し、南小学校区区民と南小学校児童及び市内のきずな協働体へのチラシ配布、その他の地域向けにFacebook広告での配信も行った。

そして、同年11月1日（日）、「第2回こばやし熱中運動会」をまち協と熱中小運動会部が中心となり、小林市健康都市推進室の後援を頂き、昨年の運動会の経験を活かした「第2回こばやし熱中運動会」を開催した。当日の参加者は60名で2歳から79歳までが参加した。新型コロナウイルス感染拡大の配慮から会場を生駒地区のコスモホールで開催し、検温・消毒・三密を避けた。

当日は運動会の趣旨説明から始まり役割分担・運動会の種目とは・使用道具・目的・ルール等をファシリテーターが中心となり5種目を参加者自身が考えた。使用する道具とテーマはくじ引きで決め、4つの団が各競技を考えた。自己紹介から始まったハッカソンだったが、参加者のアイデアが集まりだし1つの競技として作っていく過程で各団の団結は強くなっていった。ハッカソン後の運動会は、選手入場から始まり、宮原 小林市長による来賓あいさつ・西諸井ラジオ体操・選手宣誓があり熱中運動会恒例の「雄叫び」で自分たちの団の士気を高め他団の健闘を祈った。

（1）第1種目

第1種目は赤団考案ビーズクッションを使った「つないでドン」。
ビーズクッションを投げて島を作っていく、途中で落したら失敗。ゴールのハロウィンバレーンを倒したら成功。成功したらビーズクッションを回収しながらスタート地点まで戻り、3分以内に2回倒せるか。どこまで進めるかを競う競技。



【「つないでドン」開催風景】

（2）第2種目

第2種目は白団考案のバブルボールを使った「バブルクッション早抜き転がし」。
空気を抜くと転がしにくいバブルボール。30秒間で相手のバブルボールを抜いてから競技する。戦略とチームワークが試されるタイムトライアル競技。



【「バブルクッション早抜き転がし」開催風景】

（３）第3種目

第3種目は青团考案相撲の土俵を使った「おじゃみ人間掃除機」。

腕を組んで土俵に散らばったお手玉を拾ってバケツに何個入れられるかを競う競技。息の合ったチームプレーが試される競技。おじゃみとは宮崎弁でお手玉という意味。



【「おじゃみ人間掃除機」開催風景】

（４）第4種目

第4種目は黄団考案綱を使った「よんごひんごツナツナアミアミ」。

十字綱引きの綱を三つ編みにしていく競技。連携と女子力が試される競技。三つ編みの数が多く出来たチームが勝ち。よんごひんごとは宮崎弁で曲がりくねったという意味。



【「よんごひんごツナツナアミアミ」開催風景】

（５）第5種目（最終種目）

後日開催された最終種目は熱気球を使った「マークドロップ」。

地面に付けた印（マーク）を目掛けて、気球の上から布付きおもりを投げて、その近さを競うゲーム。ただし、当日は悪天候のためにマークを投げられず安全を考慮し熱気球体験に変更した。



【「マーカードロップ」開催風景】

競技名だけでは中身が分からないのがこの運動会の面白さである。参加者だけではなく見学者も「みんなで創る運動会」2歳から最高齢79歳までの参加者が「運動会」の空間をつつ小さな「小林市」と考えみんなを巻き込んだ運動会が完成した。

運動会開催後のアンケートで

■今年は小学校の運動会も縮小で寂しかったが、このような運動会に参加できいろんな年代の人とも友達になれて楽しかった（小学4年）

■子供と参加して親子のコミュニケーションの一助となった（主婦40代）

■多くの若者が街づくりや地域コミュニティに真剣に取り組んでいることに驚いた（区長70代）

等のご意見を頂いた。後日宮崎日日新聞と小林市広報に掲載され、まち協新聞を発行した。昨年の第1回こばやし熱中運動会がスポーツ庁のコラム「スポつく」に掲載された影響で今回東京・大阪・福岡・鹿児島からの参加者があった。

さいごに

新しい形の運動会を開催することにより、新たな地域コミュニティの再構築及び世代間交流を通じた市民の運動機会の創出・健康増進を図る効果が実証されたと考える。



最後にこの運動会を開催するにあたり一般社団法人運動会協会犬飼博士先生・株式会社運動会屋代表米司隆明先生をはじめスポーツ共創人材育成ワークショップ合宿2019携わって頂きました多くの方々そして共催事業を引き受けて頂きました一般社団法人熱中こばやしの皆様に感謝申し上げます。

【執筆者】



吉村 秀昭（よしむら ひであき）氏
（小林市）南校区まちづくり協議会 会長、一般社団法人熱中こばやし 理事

【略歴】

1979年生まれ

龍谷大学卒業後、祖父の会計事務所を経て、2015年より[医療法人雄信会よしむら循環器内科クリニック](#)理事・事務長。
2017年より南校区まちづくり協議会 会長、2018年より一般社団法人熱中こばやし 理事。

プライバシーポリシー

Copyright(C)2021 KIAI all right reserved.